

## 天理よろづ相談所病院を受診された患者様へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の連絡先にお問い合わせください。

お申し出になられても、いかなる不利益も受けることはございませんのでご安心ください。

また、この研究は当院の研究倫理委員会の審査を受け、病院長の許可を受けて実施しています。

研究課題名	非小細胞肺癌における胸膜外進展形式の多様性と腫瘍微小環境の関連-多施設共同研究-
当院の研究責任者（所属）	天理よろづ相談所病院 呼吸器外科 宮本英
本研究の目的	<p>がんはいろいろな正常細胞を手なずけて周囲に配置させ、免疫や抗がん剤から自分を守らせたり、増殖をサポートさせたり、転移の手助けをさせています。このような構造をがん微小環境と呼びます。この研究では、がんが胸膜をこえて壁側胸膜や胸壁に浸潤した状態（PL3 とよびます）であった非小細胞肺癌の患者さんを対象とし、がんとがん微小環境の接点に存在する T リンパ球に着目して以下の研究を実施します。</p> <p>(1) PL3 の非小細胞肺癌の患者さんの手術標本から、臓側胸膜外への進展部分を選択し、その領域にあるがん・がん微小環境の接点に存在する CD8a 陽性 T リンパ球の密度と患者さんの予後とが関連することを証明します。</p> <p>(2) 次に、がん・がん微小環境の接点に存在する CD8a 陽性 T リンパ球の密度によって、がんが再発したときに免疫チェックポイント阻害剤の効果を予測することができないかどうかを調べます。</p>
調査データ 該当期間	病院長許可日～西暦2028年12月31日まで
研究方法 (使用する試料等)	<p>■調査対象となる患者様 上記期間に非小細胞肺癌で当院、名古屋大学医学部附属病院、神戸医療センター中央市民病院、西神戸医療センター、京都大学医学部附属病院、熊本大学病院、前橋赤十字病院、松山赤十字病院、福岡大学病院、山口大学医学部附属病院、大津赤十字病院、徳島大学病院、九州大学病院に入院され、隣接臓器合併切除を含む根治的手術を受けた患者様</p> <p>■使用する情報 診療記録、検査データ、画像検査結果等</p>
試料・情報の 他の研究機関への 提供および提供方法	摘出肺検体の一部を個人情報が見えない研究番号を付与して研究代表者施設へ郵送する。

<p>研究組織</p> <p>※多施設共同研究の場合必要 ※当院のみで実施する研究の場合は不要の為、この欄は削除して下さい。</p>	<p>この研究は、多機関との共同研究で行われます。研究で得られた情報は、共同研究機関の研究責任者等で利用されることがあります。</p> <p>■研究代表者（研究の全体の責任者） 天理よろづ相談所病院 呼吸器外科 宮本英</p> <p>■その他の共同研究機関等 名古屋大学医学部附属病院 呼吸器外科 呼吸器外科 芳川豊史 神戸市立医療センター中央市民病院 呼吸器外科 濱川博司 西神戸医療センター 呼吸器外科 本山秀樹 京都大学医学部附属病院 呼吸器外科 毛受暁史 熊本大学病院 呼吸器外科 藤野孝介 前橋赤十字病院 呼吸器外科 井貝仁 松山赤十字病院 呼吸器外科 河野幹寛 福岡大学病院 呼吸器外科 佐藤寿彦 山口大学医学部附属病院 呼吸器外科 村上順一 大津赤十字病院 呼吸器外科 高橋守 徳島大学病院 呼吸器外科 滝沢宏光 九州大学病院 消化器・総合外科（第二外科） 松原太一</p>
個人情報の取り扱い	<p>研究に利用する試料や情報には個人情報が含まれますが、院外に提出する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できる情報は削除し、研究用の番号を付けます。当院の研究責任者は、研究用の番号とあなたの名前を結び付ける情報も含めて、責任をもって適切に管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報が公表されることは一切ありません。</p>
本研究の資金源 （利益相反）	<p>本研究に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。利益相反については、当院の利益相反委員会で審査され、適切に管理されています。</p>
研究期間	<p>病院長承認日 ～ 2028 年 12 月 31 日</p>
お問い合わせ先	<p>天理よろづ相談所病院 呼吸器外科 電話：0743-63-5611（代表） 研究責任者：宮本英</p>